

令和5年度第2回荒尾市総合計画審議会 議事録要旨

【日 時】 令和5年12月7日（木） 14:00～15:30

【場 所】 荒尾市役所 11号会議室

【出席委員】 6ページを参照

【事務局】 石川総務部長、中山総合政策課長、
林田政策推進室長、田村

記録者：総合政策課 林田

1. 開会

中山課長が開会を宣言し、配付資料の確認を行った。

2. 会長あいさつ

荒井会長があいさつを行った。

前回の審議会では、少子化対策に関する協議を行った。今回は、総合計画改訂版の素案について委員各位の忌憚のないご意見をお願いしたい。

3. 議事

荒尾市総合計画条例第8条第2項に基づき会長が議長となり、荒井会長が以降の議事を進行した。

(1) 第6次荒尾市総合計画改訂版の素案について

林田室長が、資料1に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

《主な意見等》

- 若い世代の結婚に関し、最近、知り合いの若い夫婦にどのように出会ったのか尋ねたところ、マッチングアプリを通じて知り合ったとのことであった。早いケースでは出会ってから2～3か月で結婚に至ることもあるようだ。
有明広域行政事務組合で婚活事業が実施されているが、例えば、行政が運営するマッチングアプリなどがあれば、若い方も安心して出会うことが出来るのではないか。
→独身者を対象とした座談会においても、出会いたいけどどうやったら出会えるか分からないという意見があった。必ずしも結婚を前提とした出会いではなく、スポーツやレクリエーションを通じて性別を問わないコミュニティづくりが必要だと感じている。(事務局)
- 改訂版の策定プロセスは理解が出来て、良いものが出来上がってきていると感じている。
この内容をいかに周知するかが大事であり、まずは市職員に対して理解を深めていく必要があると思う。
また、計画の内容については、広報などを通じて、広く市民に周知を図ることで、計画の実現につながっていくと見込まれる。
→今回の改訂では、策定段階から様々な部署や年代の市職員が参画しており、策定後は、市民や市職員に対し、広報やSNS等を活用して発信したい。(事務局)
- 将来像で示されている暮らしたいまち日本一の実現に取り組んでいく

ことで、人口減少の抑制にも寄与すると見込まれるが、そのためには、魅力ある住環境を形成することが必要である。荒尾市には充実したショッピングセンターがあり、医療施設では有明医療センターも開業した。数年前に水害はあったが、安心・安全なまちである。

また、荒尾市は様々な観光資源があるため、これが子どもたちの郷土愛の醸成につなげていくことが重要である。

→ご指摘の通り、万田坑や荒尾干潟など様々な地域資源は、観光資源であり、地域の大切な宝でもある。学校では、コミュニティスクールの取り組みを通じて、子どもたちが地域資源を主体的に学んでいる。幼少期からの地域への愛着形成は、将来の定住やUターンの視点からも重要であるため、引き続き、活動を支援していきたい。

(事務局)

- 先日、総合計画をテーマとした出前講座を依頼したが、参加者にとっても市政のことを知る良い機会となり、建設的な意見が多く出された。

総合計画審議会に参加する委員は総合計画を知ることが出来るが、出前講座を活用していくと、幅広く市民の意見を聞くことが出来るのではないかな。

- 今回の改訂では、デジタル田園都市国家構想への対応もポイントとなるが、荒尾市ではデジタル化にどのように取り組んでいるのか。

→デジタル化に関する取り組みは、荒尾市DX推進計画に基づき推進している。また、対外的な情報発信については地域活性化起業人と連携し、SNS等を活用している。様々な行政手続きについてもデジタル化を行っている。(事務局)

- スポーツを通してクラブ活動を行っているが、周囲の人は、勤務先の都合で通勤がしやすいように市外に転居する方や、荒尾市の小学校給食費無償化の開始時期と同じくして荒尾市内に家を建てる方など様々である。一旦市外に住まれても、生活が落ち着いたら荒尾市に戻りたいという声も聞く。市外に対し、荒尾市の魅力を積極的に発信してほしい。

→荒尾市に転入される理由の一つとして、ご指摘いただいた小学校給食費無償化など、本市の子育て支援制度が要因となっている事例もある。子育て世代が住む場所を決めるに当たっては、子育て支援制度の他にも、勤務先への近さや、周囲に子育てをサポートしてくれる存在が大きい。引き続き、情報発信の重要性を認識し、推進していきたい。(事務局)

- 持続的に人が住み続けるためには、郷土愛の醸成も大事だが、地元の仕事が無ければいけない。また、コロナ禍で人のつながりが減少しており、改めて、隣近所が助け合うご近所づきあいが重要となってい

る。

- 仕事の面については、熊本県への TSMC 進出というチャンスを活かした企業誘致を図ってまいりたい。また、地元への愛着形成を通じて、将来的な U ターンに繋がることも期待している。総合計画の将来像とも関係するが、人のつながりは重要であると捉えており、人同士のつながりもあれば、情報によるつながりもあると考える。様々な形でつながりを生み出していきたい。(事務局)
- 「暮らしたいまち日本一」という将来像という方向性は正しいと思うが、近年の外国人人口の増加の状況を考慮すると、外国人の視点から、「暮らしたいまち」とはどのような街で、外国人のために何が出来るとかを考えていく必要がある。
 - 近隣の自治体と比較して、本市の外国人人口は相対的に低い比率だったが、多文化共生という考え方のもと、相互理解を図っていくことが重要だと捉えている。外国人にどのような支援が出来るのか、検討していきたい。(事務局)
- TSMC の進出は大きなチャンスだが、地場企業では人材確保が困難になっているという課題もある。企業誘致による新たな企業の従業員確保とのバランス調整が難しいが、地場企業の人材についても意識しておいてほしい。
 - また、子どもの進学先について都市圏と比較すると、選択肢が限られるため、荒尾市は正直厳しいと思う。教育面についても、魅力を高めてほしい。
 - 生活に必要な都市機能を全て荒尾市で完結できれば理想だが、仕事や教育については、広域的な視点も必要になる。例えば、仕事は市外であっても、荒尾に住んでいただくことも考えられる。教育面では地元の高校と連携しながら、魅力を高めていきたい。(事務局)
- 荒尾市の人口は既に 5 万人を切っており、これから先も人口減少は避けられないように思う。それでも人口減少に悲観的にならずに、市民の満足度を高める施策を展開していくことが必要である。特に、幼児、児童のための公園の整備や子育てで負担感の大きい母親の負担軽減など、子育て世帯を支援することに力を入れて欲しい。
 - 今後、人口の V 字回復は難しいと見込まれるが、持続的な地域を作るためには、市民の満足度を高めていくことが重要だと考える。現在開発を進めている南新地地区では、子どもたちが遊べる公園や、大屋根広場、保健福祉子育て支援施設などを整備する予定である。こどもが遊びながら、保護者がゆっくりできるような場所を作っていきたい。(事務局)
- 少子化対策も重要だが、移住定住政策も重要である。荒尾で暮らしたいと思う人が増えると人口減少抑制にもつながっていく。商工会議所

としても、人口減少は、働く人や来客数等の減少につながるため、大きな問題だと捉えている。商工会議所では、会報を年に4回発行しているので、会員企業に対し何か伝える情報があれば、活用いただきたい。暮らしたいまち日本一の実現に向けて、商工会議所として協力していきたい。

- 総合計画は文章を作るだけではなく、いかに優先順位をつけて実行していくかが大事だが、具体性がまだ見えづらい部分がある。デジタル化の社会の中ではスピード感が非常に重要となる。暮らしたい街日本一に向けて、ライフステージに応じた生活のあり方を意識しながら、荒尾市という舞台を立派に作りあげて、人が交流し、暮らしていくことが大事。行政と市民で協力して進めていって欲しい。熊本県は、以前は南北格差という言葉があったが、今は、北北問題が生まれていると感じる。合志・大津・菊陽エリアと、荒尾・長洲・山鹿エリアとの間に格差が生まれてきているのではないか。今、いかに踏ん張るか、荒尾の力が試される。荒尾市だけの総合計画ではなく、県北を代表する計画という思いを持って、盛り上げていってほしい。

中山課長から、本日のご意見や、今後実施するパブリックコメントによるご意見を踏まえながら答申案をまとめていくことが説明された。

なお、答申案の取りまとめについては、荒井会長に一任することについて承認された。

4. その他

中山課長が、議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力を依頼した。また、今後のスケジュールとして、パブリックコメントの実施時期や、答申及び策定の予定時期について説明した。

5. 閉会

中山課長が、閉会を宣言した。

令和5年度第2回 荒尾市総合計画審議会 出席者名簿

	分野	団体名	役職名	氏名	備考
1	学識経験者	熊本学園大学	元経済学部教授	荒井 勝彦	
2		九州看護福祉大学	社会福祉学科特任准教授	李 玄玉	
3		有明工業高等専門学校	校長	八木 雅夫	欠席
4	経済	荒尾商工会議所	会頭	高木 洋一	
5		一般社団法人荒尾市観光協会	会長	山代 秀徳	
6		玉名農業協同組合荒尾市総合支所	担当理事	隈 学	
7		荒尾漁業協同組合	代表理事組合長	西川 幸一	欠席
8	金融	肥後銀行荒尾支店	支店長	前田 裕規	
9	労働団体	連合熊本肥後有明地域協議会	議長	馬場 清治	
10	雇用	玉名公共職業安定所	所長	野島 学	
11	職業訓練	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 熊本支部熊本職業能力開発促進センター	荒尾訓練センター長	峯 恭彦	欠席
12	教育	荒尾市教育委員会	教育長	浦部 眞	
13	医療	荒尾市三師会(荒尾市医師会)	会長	伊藤 隆康	欠席
14	スポーツ	荒尾市体育協会	会長	山口 賢一	
15	文化	荒尾市文化協会	会長	井上 泰秋	欠席
16	住宅	熊本県宅地建物取引業協会荒尾支部	支部長	下田 次郎	
17	結婚	有明広域行政事務組合 (荒尾・玉名地域結婚サポートセンター)	総務課班長	長田 享	代理出席
18	福祉	荒尾市社会福祉協議会	会長	丸山 秀人	
19	市民団体	荒尾市子ども会連合会	会長	橋本 誠剛	
20		荒尾市老人クラブ連合会	副会長	辛島 正春	
21		女性ネットワーク荒尾	代表者会代表	坂田 尚子	
22	住民代表	荒尾市行政協力会	会計	林 一夫	
23		荒尾市地区協議会会長会	会長	河部 啓宣	
24		公募委員	—	陣内 透	
25		公募委員	—	甲木 喜一郎	欠席
26	熊本県	県北広域本部玉名地域振興局	局長	川元 敦司	
27	行政	荒尾市	副市長	田上 稔	

※敬称略、順不同